

# 3寺子屋だより

※題字／森川芳聲



ひのみせき  
出雲市大社町日御碕／日御碕神社境内

## 碑のこころ

## 社号碑

神社入口階段下に建つ社号碑。「大神宮」との表示がある。

※詳しい解説は12頁に掲載しています

## もくじ

- 2 巻頭言『古典に親しめば先人と心が通う』… 山口 秀範
- 3 教育雑感④ …… 白濱 裕
- 4 寺子屋出雲紀行 …… 水崎 之子  
他
- 7 鳥飼八幡宮―ゆかりの名士たち  
(第一回) 中野 正剛 …… 山内 圭司
- 8 これからの「寺子屋だより」を語る… 山口 秀範  
元木 哲三
- 10 TERAKOYAふおとれぼーと
- 11 “あちこちde寺子屋”のご案内
- 12 碑のこころ(4) 編集余録



# 古典に親しめば先人と心が通う

代表世話役 山口 秀範

昨秋「自啓共創塾」というオンラインセミナーで話題提供をする機会がありました。「日本型リベラルアーツ」を若者層へ伝播に努める主催者「世界のための日本のこころセンター」は、以下のように述べています。

人類が危機に直面している今、欧米など世界の若者は祖先の歩みを振り返る学び、つまり、古代ギリシャ・ローマにルーツを持つリベラルアーツによる学びを深めています。一方で日本においても、先人たちが練り上げ時代を超えて私たちの生き方の土台となる、こころの文化や智慧が遺されており、それはこれからの世界に大きく貢献できる価値と普遍性を有しています。これを私たちは「日本型リベラルアーツ」と名付けました。

その趣旨に沿って「古典に親しめば先人と心が通う」と題し、参加者と原文を読みつつ話しました。

## 『実語教』冒頭を読む

山高きがゆゑに貴からず、  
樹有るをもつて貴しと為す。  
人肥たるがゆゑに貴からず、  
智有るをもつて貴しと為す。

江戸時代全国に二〜五万あった寺子屋の多くで、入門書として使われた『実語教』の冒頭部分です。

——山は高いから貴重な訳ではない。山に沢山生えている木々は花や実をつけ、大雨が降っても根の保水力によって洪水を防ぐ。やがて切り出された木材は家や道具となって活用される——つまり人々の役に立つ木を多く育むから、古来山は大事にされてきたのです。同様に人も、目方で偉さが決まる訳はなく、智恵や分別を身につけた人が尊敬されます。その「智」こそ、

寺子屋で子供たちに日々授けられるものなのです。そして次には智と富を比較します。

富はこれ一生の財にして、  
身滅ぶればすなはち共に滅ぶ。  
智はこれ万代の財にして、  
命終はるともすなはち随ひて行はる。

寺子屋の先生も「お金などどうでもよい」とは言いません。確かに「富は一生の宝」だが、あの世まで持つて行けない。一方智恵は、しっかり身につければその人の寿命が尽きても光輝くというのです。現に『実語教』の作者（一説には弘法大師とも）は既にこの世にいないが、後世の子供たちに知恵を与え続けています。江戸時代までの子供たちが極く自然に学んだ教えはいつの間にか忘れ去られています。古文というだけで遠ざけている風潮は大変残念です。

## 二宮尊徳の言葉？

最近ネット上で「道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である」は二宮尊徳の代表的言葉だと拡散していますが、鵜呑みにしてよいでしょうか。

この言葉の典拠を明らかにした人はいません。そもそも「経済」は明治以前には「経世済民」（世を治め民を救う）の略語で、言わば「道徳」と同類のニュアンスを持ち、右の言葉自体が意味を成しません。そもそも「犯罪」、「寝言」など品格のない用語は尊徳に相応しくないのでしょう。古典に親しむうちに、偉人の言葉の真贋を見分ける力も養われて来るものです。オンラインの参加者に、正真正銘尊徳の詠んだ道歌（よりよく生きるしるべの和歌）を二首紹介しました。

父母も その父母も 我身なり われを愛せよ  
われを敬せよ

親孝行と言うと、母の日のプレゼントや家事の手伝いも喜んでくれるでしょうが、真の孝行とは父母、祖父母そしてすべてのご先祖さまの願いや祈りがすべて我が身に伝わっていると自覚し、自分自身を大切にしながら生きることだと尊徳は気づかせてくれます。

むかし蒔く 木の実大木と 成りにけり  
今蒔く木の實 後の大木ぞ

土と水と自然に日々接しながら暮らした尊徳は、眼前にある大木の恩恵―景観、日蔭、花や果実等々―を実感したに違いありません。その思いはずっと昔に種を蒔き、苗を育てた先人への感謝に直結するのです。更にもう一步進んで、将来を生きる人々のために今種を蒔いておこうと提案するのです。皆さんも現在何かの恩恵を感じたら、恩返しを未来につないで欲しいとオンライン画面に語りかけました。

○ 昨年十月末に、十五名参加で実施した「出雲ツアー」を本号で特集しています。左は旅行中の拙詠です。今年の寺子屋研修は関東に足を延ばそうかと思案中です。

## 神魂神社

室町の頃に成りたる御社は星霜重ねいよよ神さぶ  
国宝と聞けば誇らし古への祈り伝へて今も鎮もる  
日御碕神社への道

秋空は朗らかに晴れて目の前のか青の海原涯なく照らす  
海つ路を「国来国来」と引き寄せし神代もかくやと沖  
はるか見つ  
出雲大社

来る者の度肝を抜きて翻る日の丸映ゆも出雲の空に  
神集ふ社並びて千木越しに目にも著けき日の御旗かな  
須佐神社

千歳越す昔に生ひし大杉は社殿の後へを今も護れり  
幹太く真直ぐに伸びて木末には緑繁らす生命の力  
バスの中にて

雲立ちて動かぬ秋の出雲路をまどろみながらバスの旅  
行く  
とどこどこ山は色変へ湖の青深まりて秋たけむとす